

ちごの 稚児野遺跡 第4次調査

調査場所 京都府福知山市夜久野町井田

調査期間 令和3年5月10日～令和3年12月後半予定

調査面積 2,450 m²



後期旧石器時代

★ 稚児野遺跡

40,000年前

30,000年前

20,000年前

章創期

早期

前期

中期 後晩期

10,000年前

弥生時代～現代

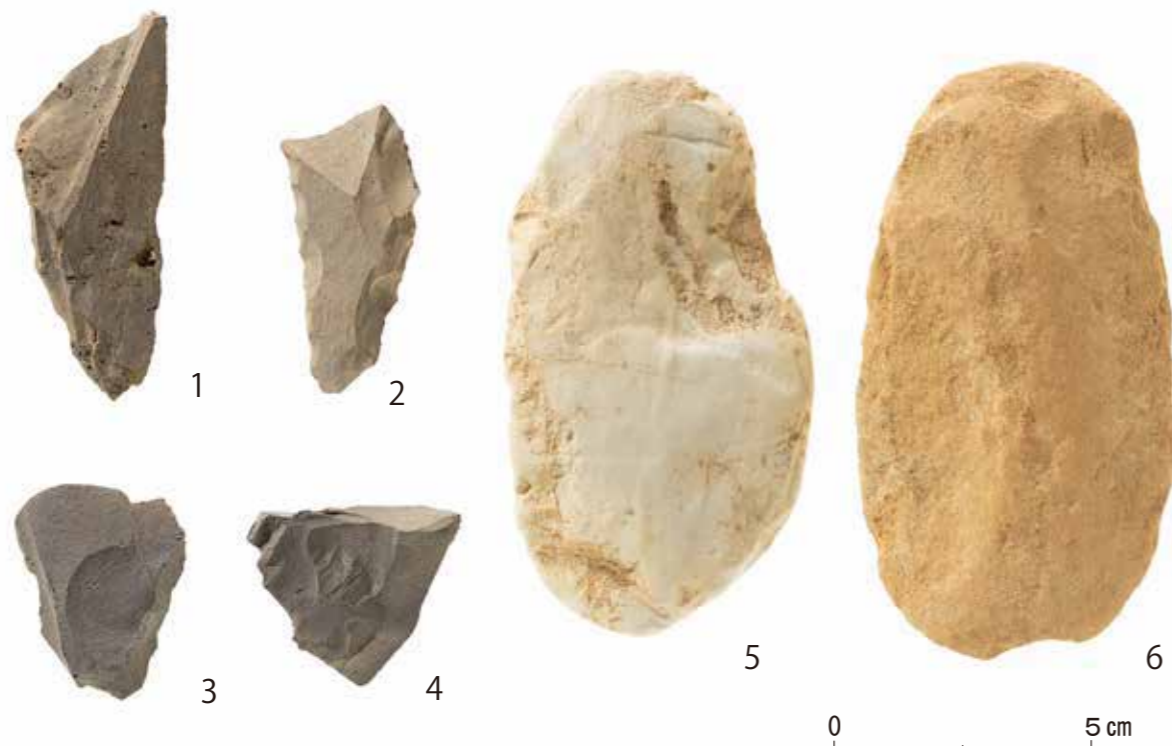


写真2 稚児野遺跡出土石器

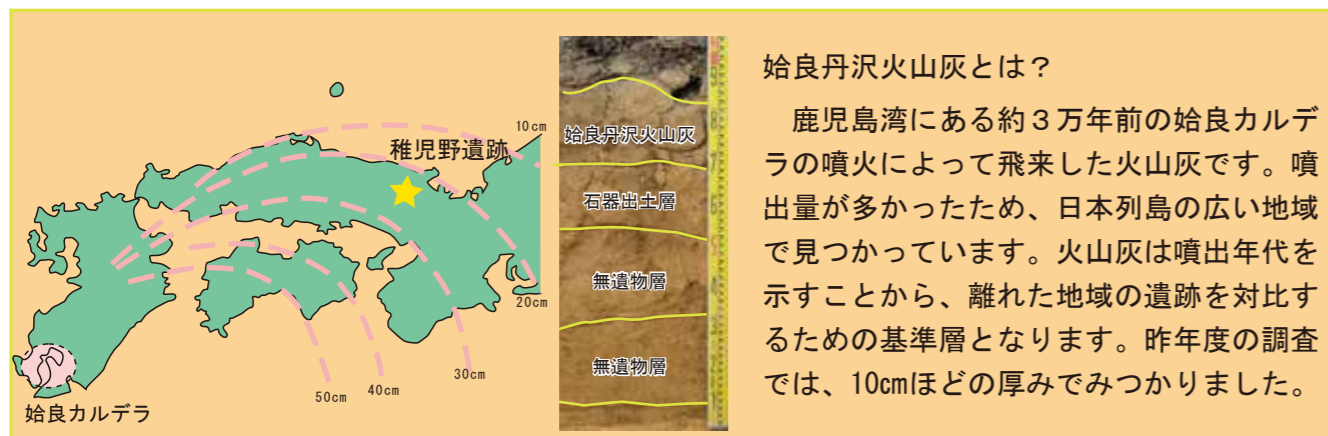
ナイフ形石器（1・2）、台形石器（3）、削器（4）、刃部磨製石斧（5・6）
サヌカイト（1～4）、シルト岩（5・6）

ますが、サヌカイトは奈良県と大阪府の境にある二上山周辺から運ばれました。チャートも、遺跡周辺では産出しない石材です。

これらの石器は後期旧石器時代前半に特徴的な石器で、約36,000年前の石器と考えられます。

まとめ

今回の調査によって、後期旧石器時代前半のムラの可能性がある環状ブロックが見つかりました。環状ブロックは東日本で多く検出されていますが、京都府内では初めての発見で、近畿地域では2例目の発見例です。環状ブロックは十数名以上の旧石器人がテントを張り、集団で狩りをしていた可能性を示しています。稚児野遺跡の周辺は多くの獲物を狩ることができる重要な場所であったと考えられます。類例の少ない近畿地方北部地域においては今回の発掘成果は当時の暮らしを知る上で貴重な成果であると位置づけられます。



始良丹沢火山灰とは？

鹿児島湾にある約3万年前の始良カルデラの噴火によって飛来した火山灰です。噴出量が多かったため、日本列島の広い地域で見つかっています。火山灰は噴出年代を示すことから、離れた地域の遺跡を対比するための基準層となります。昨年度の調査では、10cmほどの厚みで見つかりました。

はじめに

稚児野遺跡は、牧川に大きく張り出した標高約 104mの台地上に位置する旧石器時代から平安時代の遺跡です。

今回の調査は、国土交通省福知山河川国道事務所の依頼を受け、国道 9 号の改良工事に伴い実施しています。

令和元年度に旧石器時代の包含層を確認し、令和 2～3 年度に調査をしました。その結果、約 3 万年前に飛来した始良丹沢火山灰層よりも下の地層から総数 1,200 点以上の石器が出土し、京都府で最も石器の出土点数が多い後期旧石器時代の遺跡になりました。



図 1 調査地位置図及び周辺遺跡分布図
(国土地理院 福知山西部 1/25,000)

調査概要

昨年度の調査では、調査区の南側から数多くの石器が出土しました。一方、今年度の調査では、丘陵尾根頂部の南緩斜面にあたる調査区の北側から数多くの石器が出土しました(写真 1)。両石器群はおおむね 50m 離れていることから、一定の時間差があると考えられます。



写真 1 稚児野遺跡調査地全景(南から)

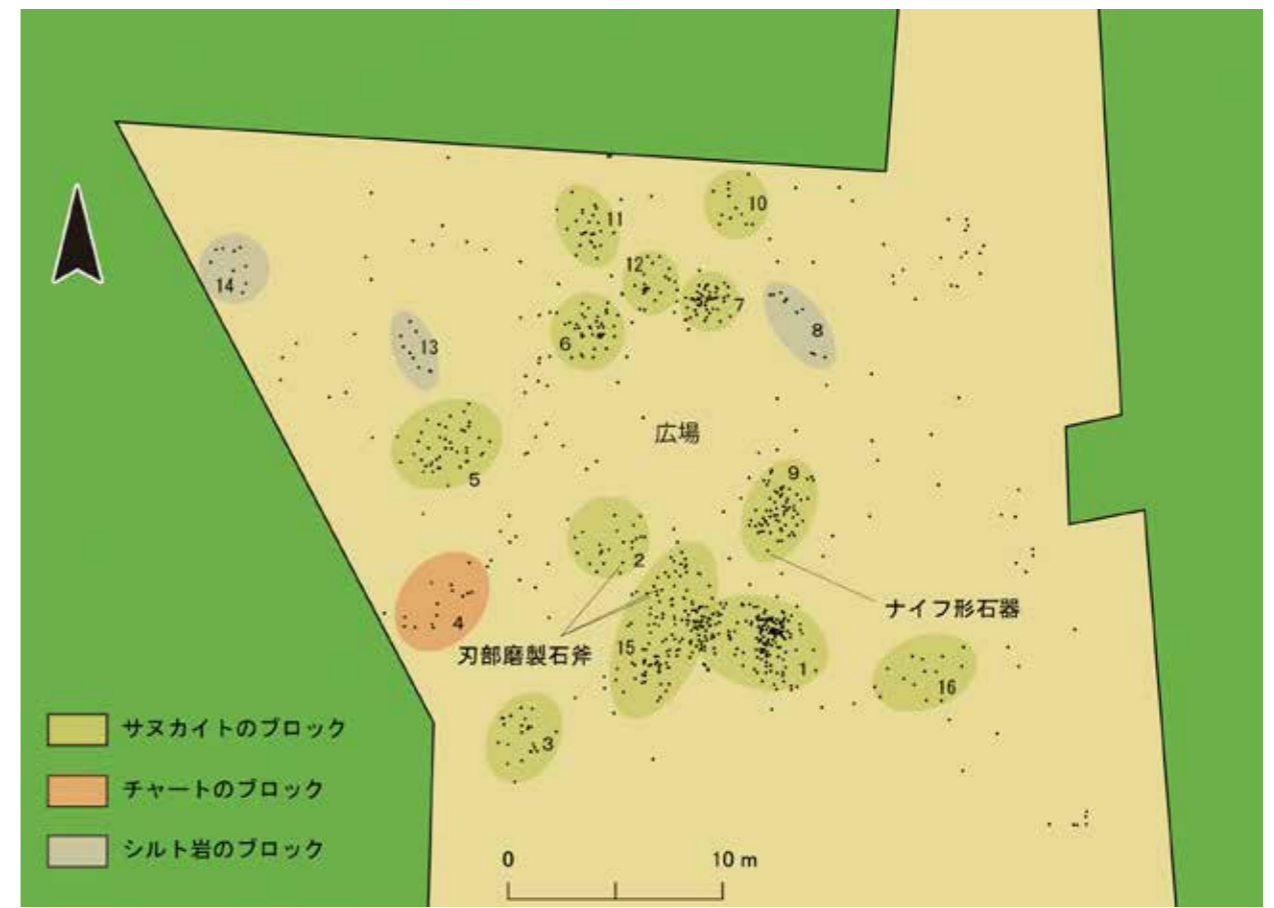


図 2 石器出土状況

石器の分布を詳しく見ていくと、石器がまとまって出土する集中部(ブロック)がいくつかあることがわかります。こうしたブロックは旧石器時代の人々が石器を製作するなどの作業場だと考えられています。この遺跡では、16か所ほどのブロックがあることを確認しました。1つのブロックの大きさは3～10mほどで、16か所のうち12か所ではサヌカイトが多く、北側の3か所では刃部磨製石斧の材料であるシルト岩が多く分布しています。チャートのブロックは1か所だけでした。

図2のようにブロックは中央に空間地を残して直径約25mの円形に分布しています。このような石器の出土状況を環状ブロックと呼び、旧石器時代の人々が数世帯で1つのムラを作っていた証拠と考えられています。

石器について

石器には槍先として使用されたナイフ形石器(1・2)、台形石器(3)、動物の解体や骨や角、革の加工などに用いた削器(4)、木の伐採などに用いた刃部磨製石斧(5～6)などがあります。石材にはサヌカイト、チャート、シルト岩などが用いられています。シルト岩は地元で入手でき

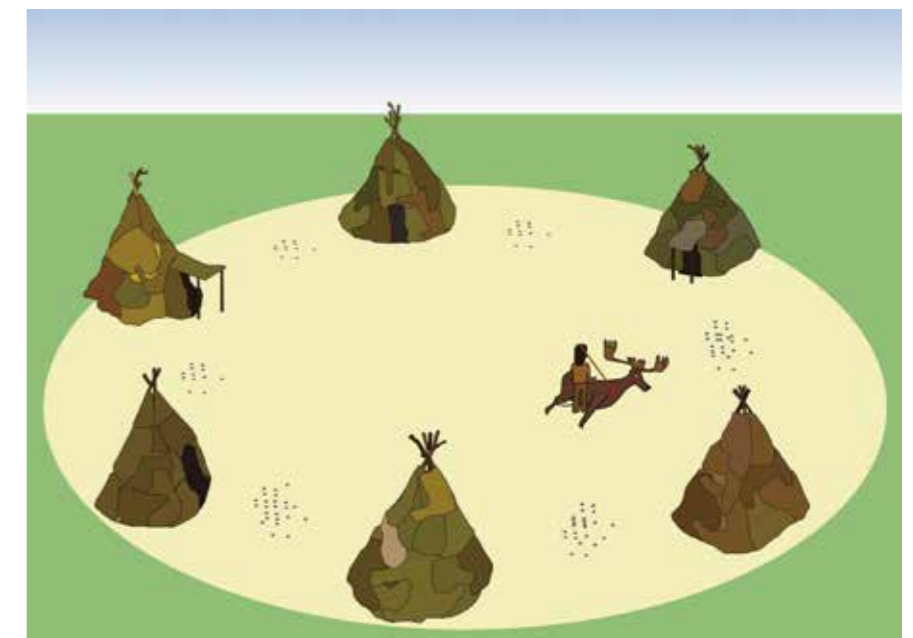


図 3 環状ブロックから復元できるムラ